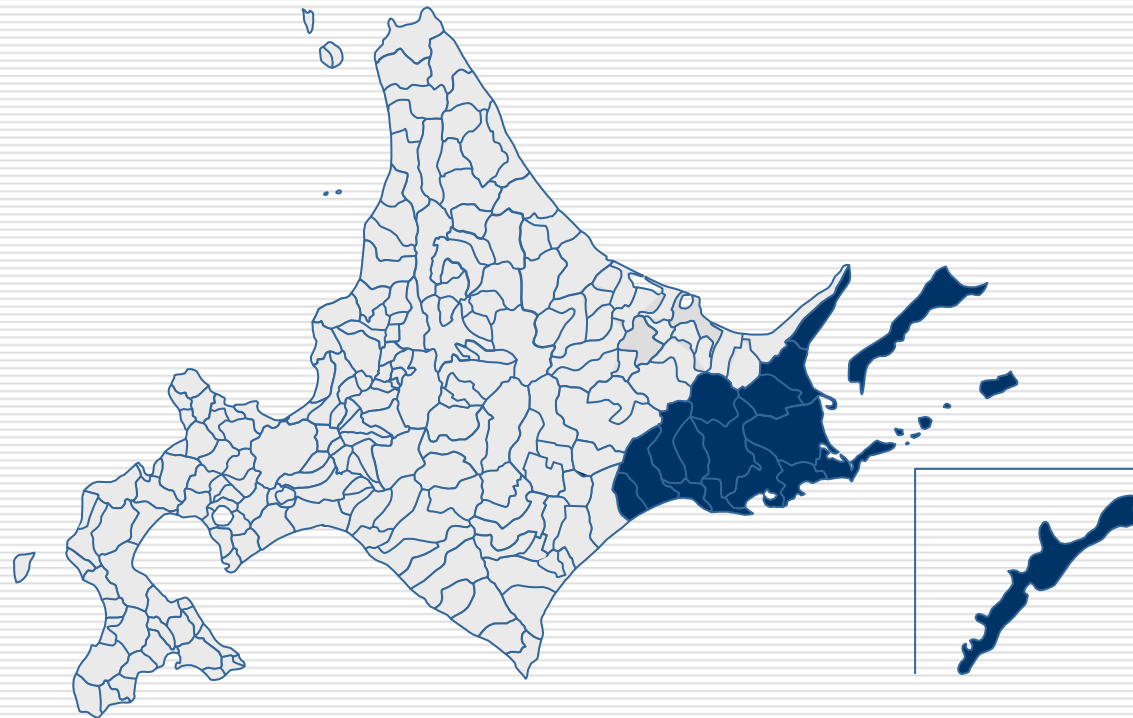


地域の現状と課題に関する資料



概観

人口減少下における地域経営について

～ 2030年の地域経済のシミュレーション～ からみた釧路・根室地域

「人口減少下における地域経営について～2030年の地域経済のシミュレーション～」に基づいて地域を概観すると、2030年には人口が24%減と他地域に比べ、人口減少が急速に進むと予測される。

域内総生産も13%減少し、地域活力の低下が懸念される。
 なお、このシミュレーションのほかにも各種の推計結果があるが、人口などの減少幅をより大きく予測しているものが多い。

	人口			域内総生産			人口あたり域内総生産		
	2000年 (万人)	2030年 (万人)	変化率	2000年 (億円)	2030年 (億円)	変化率	2000年 (万円/人)	2030年 (万円/人)	変化率
東京都市圏	3,181.4	3,206.2	+0.8%	1,596,450	1,767,368	+10.7%	502	551	+9.9%
政令指定都市の都市圏 (9都市圏合計)	3,152.5	2,945.5	-6.6%	1,327,538	1,419,177	+6.9%	421	482	+14.4%
県庁所在地の都市圏 (政令指定都市以外、33都市圏合計)	2,021.5	1,731.9	-14.3%	788,037	762,568	-3.2%	390	440	+12.9%
10万人以上の都市圏 (県庁所在地以外、116都市圏合計)	2,675.7	2,242.9	-16.2%	1,061,178	992,948	-6.4%	397	443	+11.6%
うち釧路市都市圏	22.6	17.3	-23.5%	8,315	7,356	-11.5%	369	425	+15.3%
10万人未満の都市圏 (110都市圏合計)	694.9	524.0	-24.6%	243,911	206,991	-15.1%	351	395	+12.5%
うち根室市都市圏	3.3	2.5	-25.9%	1,211	986	-18.5%	365	401	+9.9%
都市圏合計(269都市圏)	11,726.0	10,650.4	-9.2%	5,017,114	5,148,992	+2.6%	428	483	+13.0%
釧路市都市圏・根室市都市圏合計	25.9	19.8	-23.6%	9,526	8,342	-12.4%	368	421	+14.4%
釧路支庁	27.7	21.2	-23.5%	10,216	9,038	-11.5%	369	426	+15.4%
根室支庁	8.6	6.4	-25.6%	3,532	2,875	-18.6%	411	449	+9.2%
釧路支庁・根室支庁合計	36.3	27.6	-24.0%	13,748	11,913	-13.3%	379	432	+14.0%

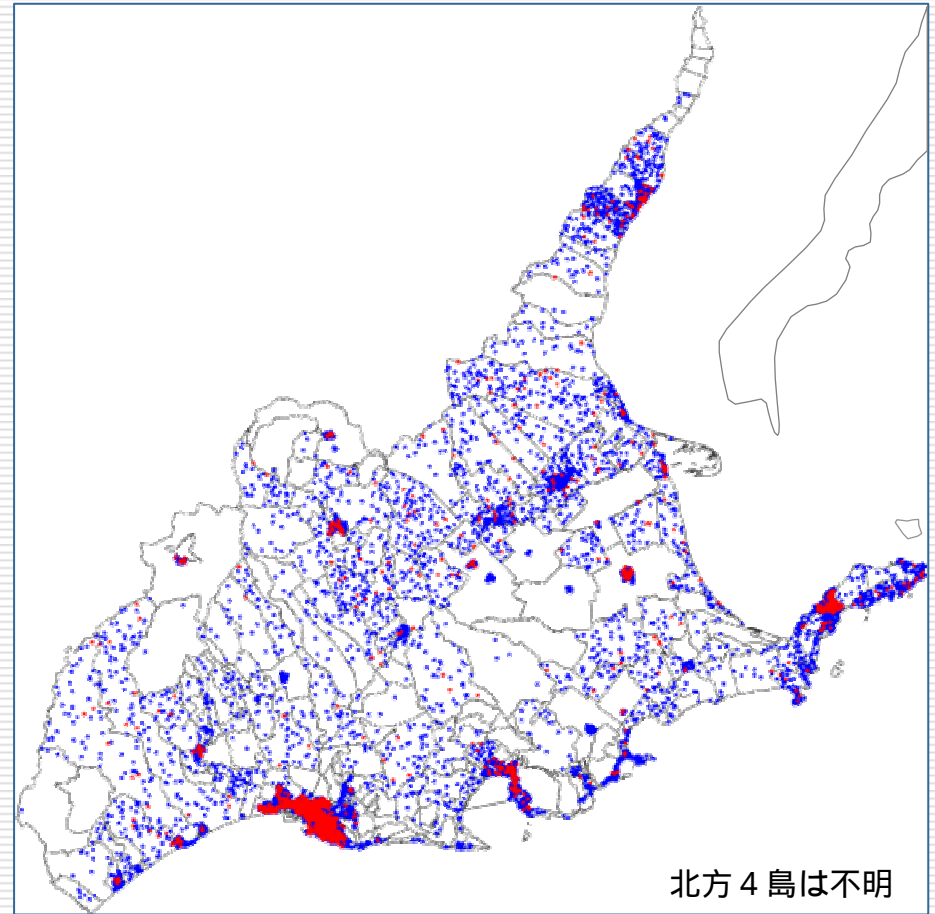
「人口減少下における地域経営について～2030年の地域経済のシミュレーション～」平成17年12月2日地域経済研究会
 により未来総研が推計

人口

地域の人口分布(2000年)

地域の人口分布をみると、釧路市、根室市、中標津町、釧路町などに集中しているが、全体的には分散的に集落が点在する傾向にある。これら都市部以外をみると、沿岸部では漁港などを中心に集積、内陸部では観光地などに集積があるが、そのほか酪農な盛んな地域では一部集落を除くと点在傾向にあり、地域によって異なる傾向を有している。

【釧根地域の人口分布(2000年)】



釧路支庁及び根室支庁分のみ抜粋

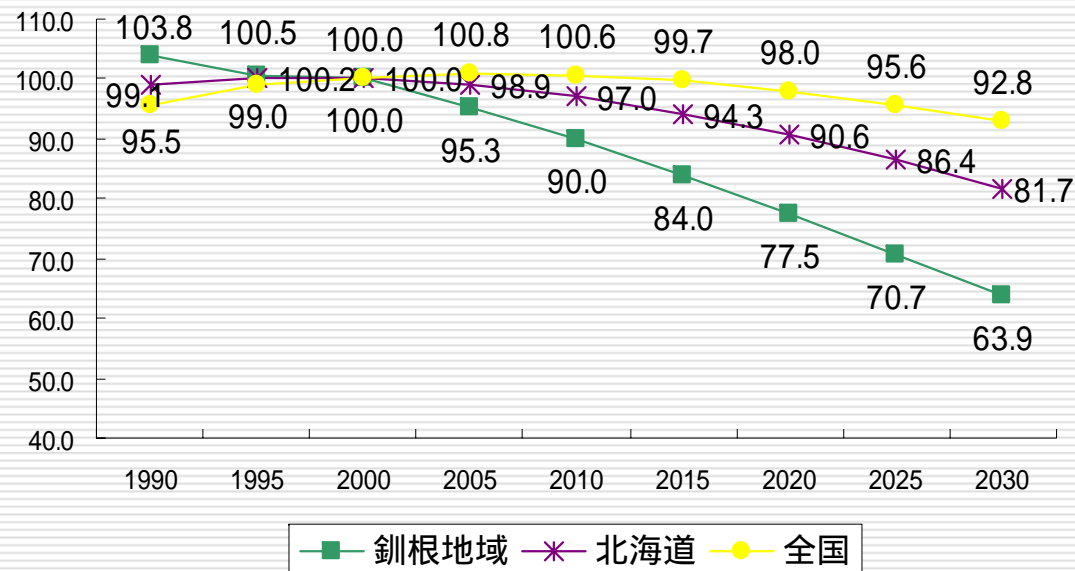
1条丁あたりの人口が100人以上は100人を単位に赤いドットを1つ、
1条丁あたりの人口が100人未満は10人を単位に青いドットを一で表示している。

平成12年国勢調査
総務省統計局

地域の人口推移(2000年基準)

地域の人口は、2000年を100とすると、一貫して低下し、2030年には63.9と予測される。なお、2030年の全国が92.8、北海道が81.7となっており、これらと比較すると人口減少は顕著である。

【全国および北海道、釧根地域の人口推移(2000年 = 100.0)】



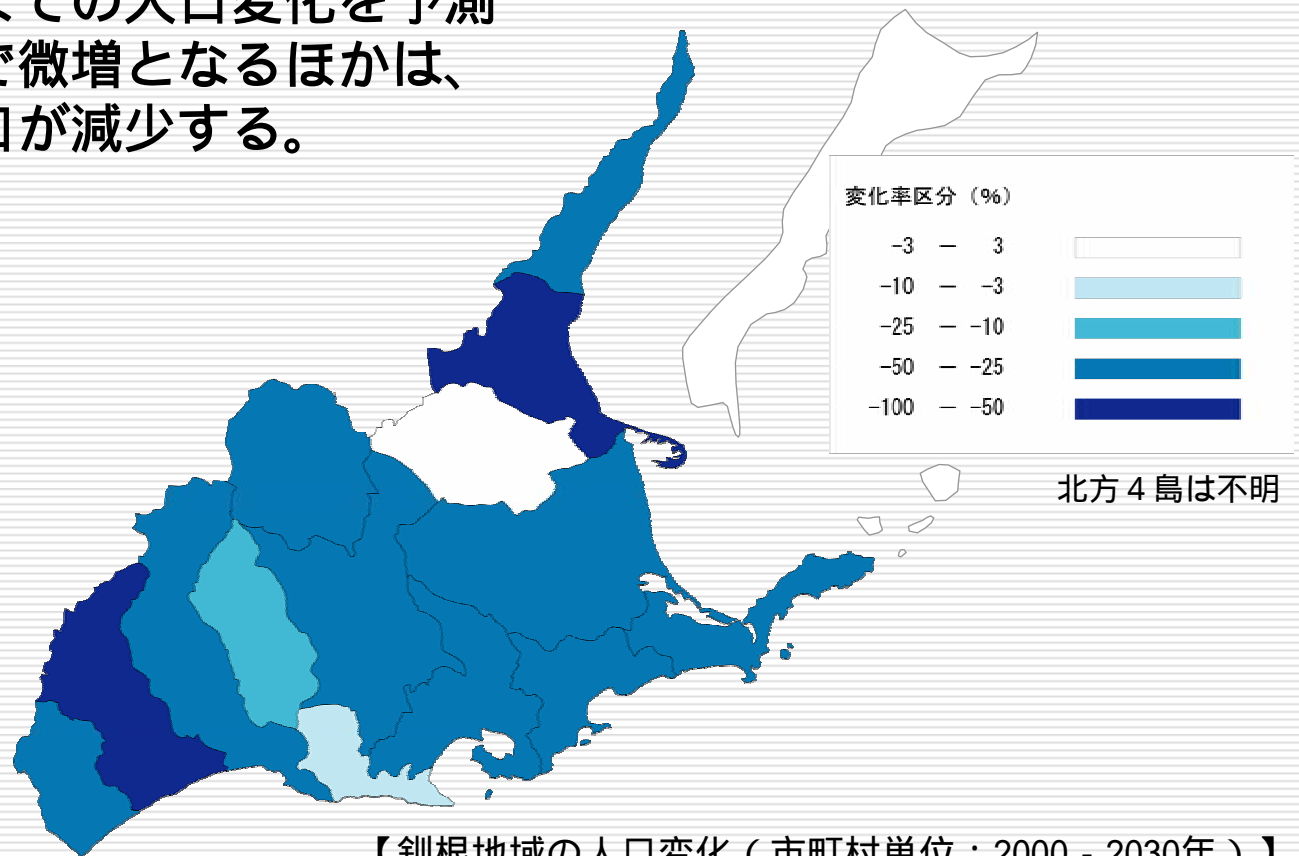
全国は「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)の中位推計による
釧路・根室地域および北海道は未来総研による推計

人口

市町村別人口推移(2000 - 2030年)

2000年から2030年までの人口変化を予測すると、中標津町で微増となるほかは、全ての市町村で人口が減少する。

【コーホート要因法を用いた推計】
 基準人口：総務省統計局「平成12年国勢調査」による北海道の男女・年齢（5歳階級）別人口（なお、年齢不詳人口は5歳階級別に按分して含めた）。出生率：平成15年の合計特殊出生率1.20（北海道）が今後も続くと仮定。出生性比：北海道保健福祉部「北海道保険統計年報」から算出した出生比103.5（平成15年値）が今後も続くと仮定。生残率：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口 - 平成12（2000）～42（2030）年 -」（平成14年9月）で設定されている北海道の将来の仮定値。純移動率（社会移動）：国勢調査人口（1995～2000年のトレンド）と簡易生命表から算出した生残率（北海道、平成12年値）を用いて算出（将来推計では算出した純移動率が将来不変であると仮定）。



釧路支庁及び根室支庁分のみ抜粋

平成17年4月時点で合併ないしは告示済みの市町村については、合併が行われたものとして整理している。

未来総研による推計


 人口

市町村別人口予測(2030年)

市町村別に人口をみると、2000年対比では半減近い市町村もいくつか予測される。

【釧根地域の市町村別人口(2000年：2030年)】

市 町 村	2000年			2030年			2000 - 2030年変化率(%)		
	人口総数	男	女	人口総数	男	女	人口総数	男	女
釧路市	201,566	96,439	105,127	124,015	56,219	67,797	-38.5	-41.7	-35.5
釧路町	22,478	11,046	11,432	20,793	9,450	11,343	-7.5	-14.4	-0.8
厚岸町	12,307	5,893	6,414	6,553	3,058	3,495	-46.8	-48.1	-45.5
浜中町	7,335	3,540	3,795	3,831	1,760	2,072	-47.8	-50.3	-45.4
標茶町	9,388	4,553	4,835	5,059	2,371	2,687	-46.1	-47.9	-44.4
弟子屈町	9,493	4,606	4,887	5,461	2,795	2,666	-42.5	-39.3	-45.4
鶴居村	2,728	1,338	1,390	2,283	1,097	1,186	-16.3	-18.0	-14.7
白糠町	11,359	5,365	5,994	5,325	2,369	2,956	-53.1	-55.8	-50.7
小計	276,654	132,780	143,874	173,320	79,118	94,201	-37.4	-40.4	-34.5
根室市	33,150	15,819	17,331	18,433	8,511	9,922	-44.4	-46.2	-42.7
別海町	16,910	8,435	8,475	11,070	5,532	5,538	-34.5	-34.4	-34.7
中標津町	23,179	11,368	11,811	23,343	10,663	12,680	0.7	-6.2	7.4
標津町	6,298	3,082	3,216	2,446	966	1,479	-61.2	-68.6	-54.0
羅臼町	6,956	3,501	3,455	3,489	1,863	1,626	-49.8	-46.8	-52.9
小計	86,493	42,205	44,288	58,781	27,536	31,245	-32.0	-34.8	-29.4
合計	363,147	174,985	188,162	232,101	106,654	125,447	-36.1	-39.0	-33.3

2005年4月時点で合併ないしは告示済みの市町村については、合併が行われたものとして整理している。

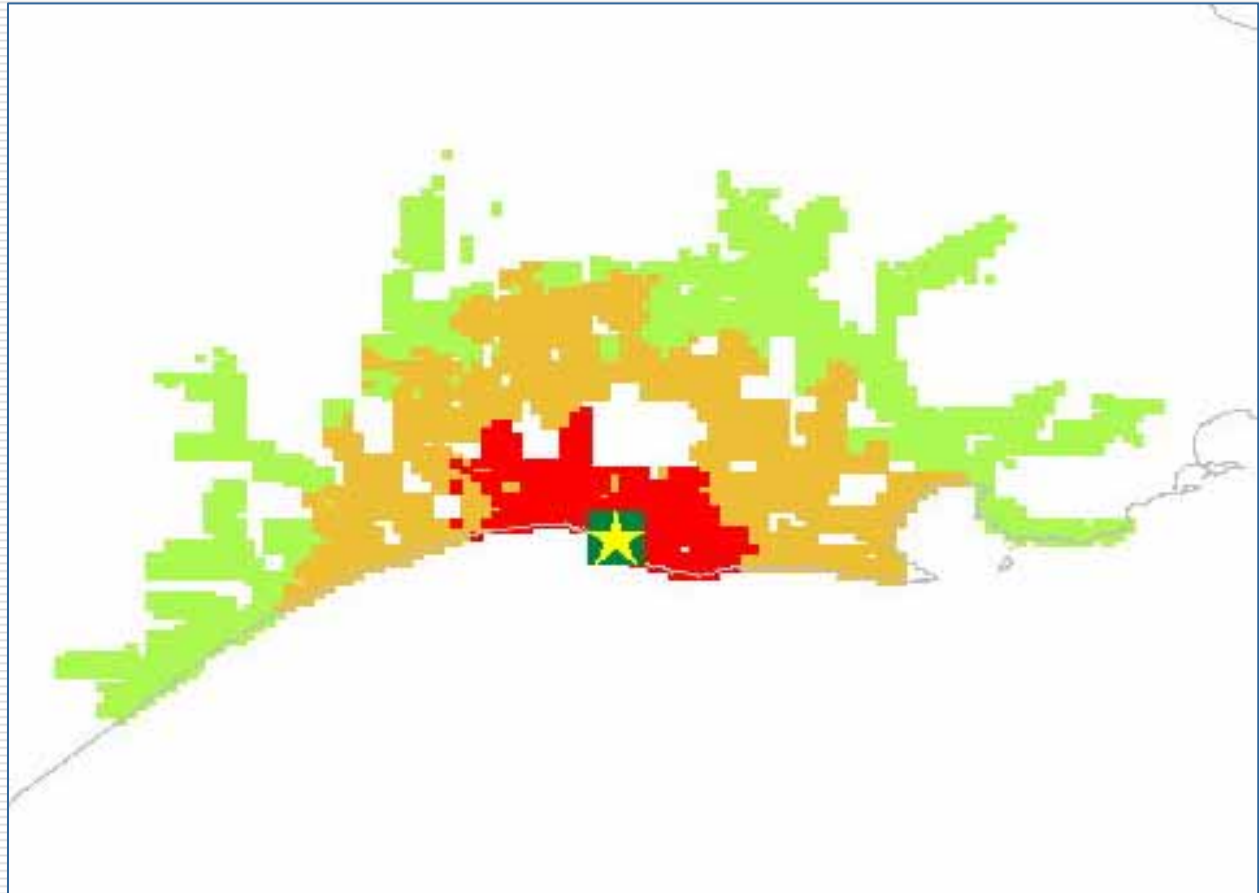
2000年は国勢調査
2030年は未来総研による推計

人口

釧路市の時間圏域

釧路市(市役所起点)
を起点とした自動車
による時間圏域をみる
と、人口ベースで
30分圏域:11万人
(釧路・根室圏の30.4%)
60分圏域:19万人
(同52.5%)
90分圏域:22万人
(同60.7%)
をカバーしている。

時間圏域	
■	30分
■	60分
■	90分



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。

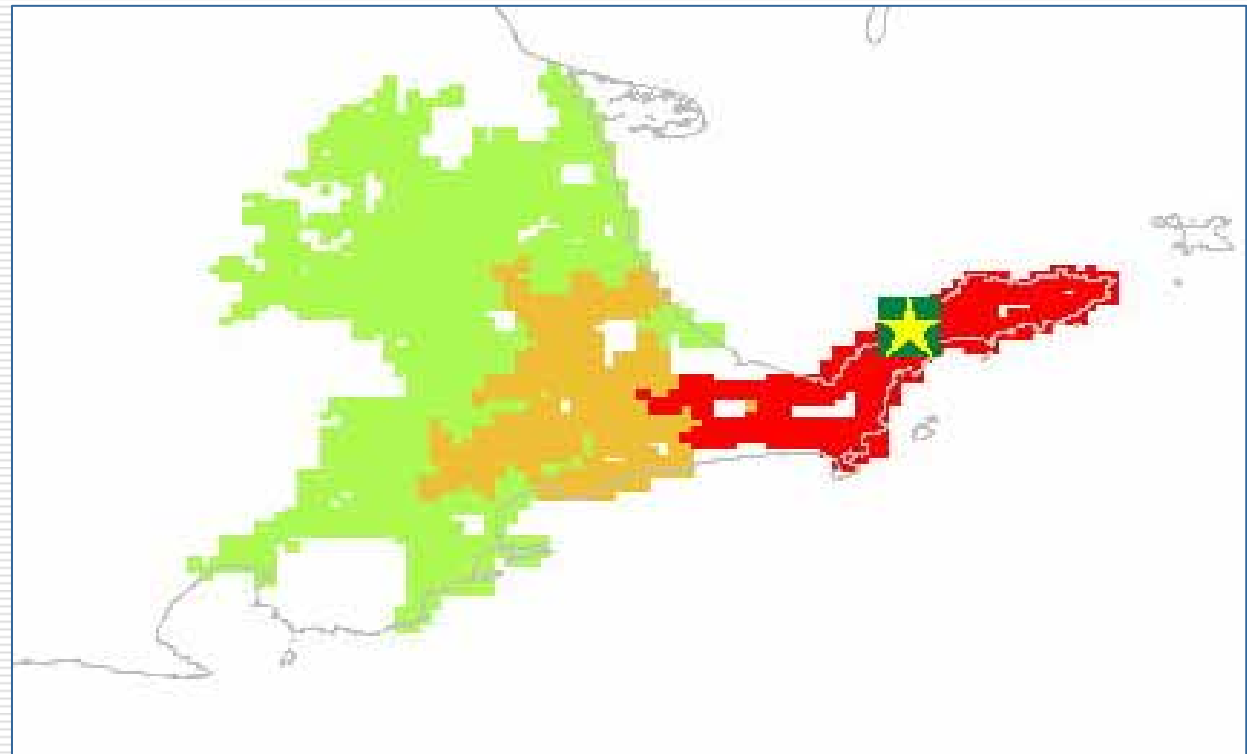
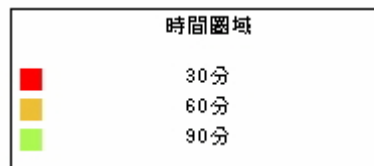
地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。

総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

人口

根室市の時間圏域

根室市(市役所起点)
を起点とした自動車
による時間圏域をみる
と、人口ベースで
30分圏域:3万人
(釧路・根室圏域の8.2%)
60分圏域:4万人
(同10.8%)
90分圏域:4万人
(同11.1%)
をカバーしている。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。

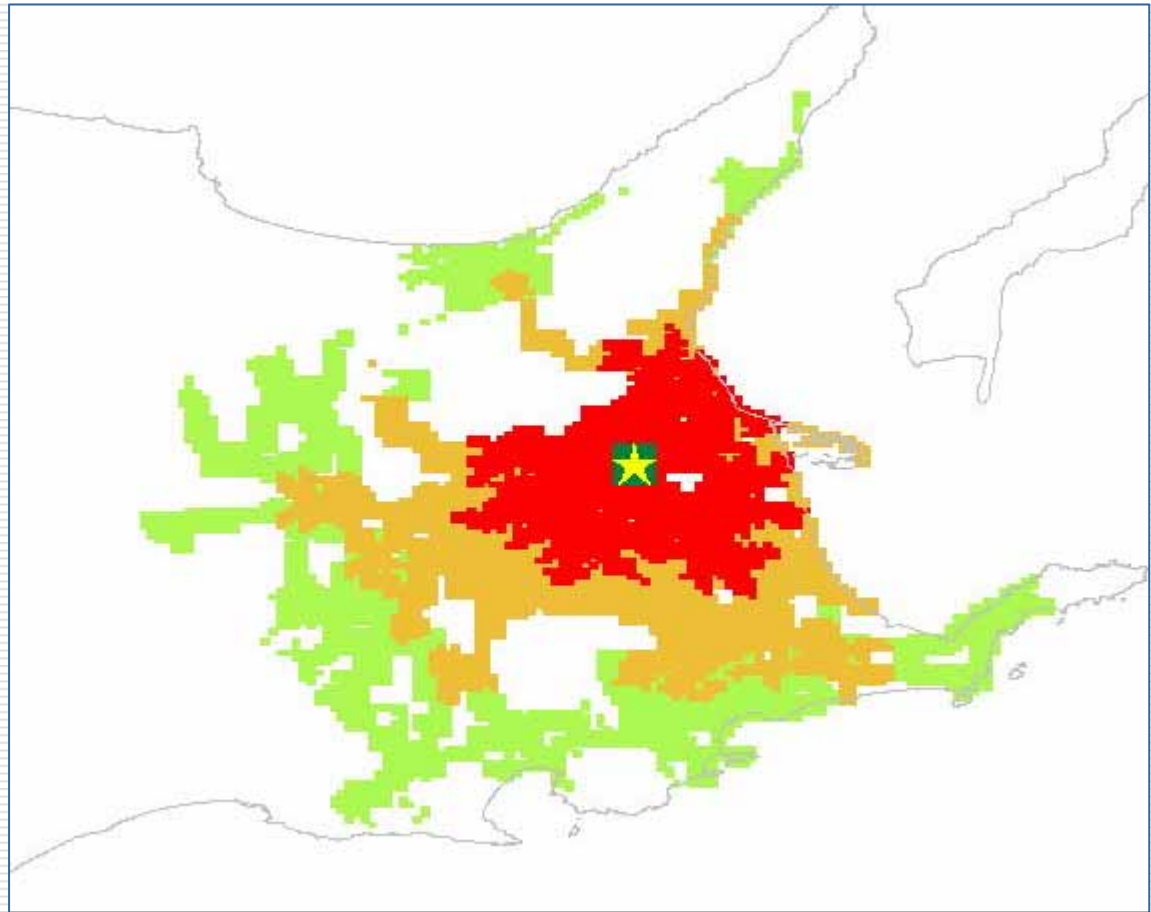
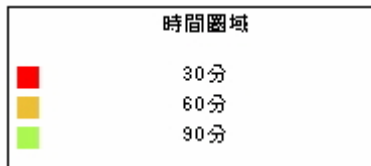
地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。

総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

人口

中標津町の時間圏域

中標津町(市役所起点)
を起点とした自動車
による時間圏域をみると、人口ベースで
30分圏域:4万人
(釧路・根室圏域の11.0%)
60分圏域:6万人
(同16.5%)
90分圏域:12万人
(同33.0%)
をカバーしている。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。

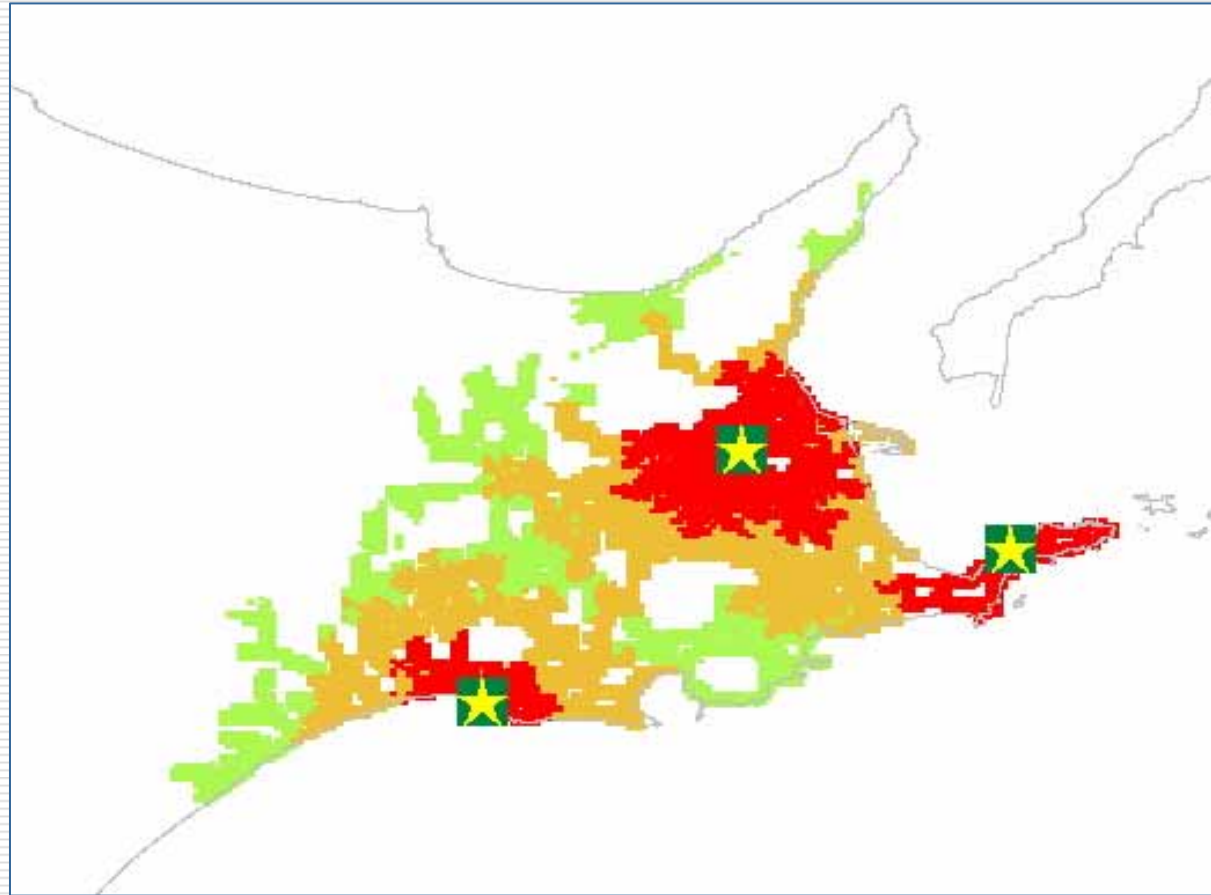
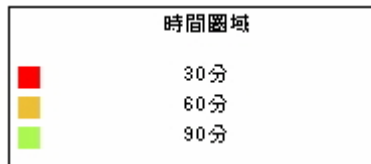
地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。

総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

人口

釧路市、根室市、中標津町からの時間圏域

商業や医療機能などの集積が認められる3市町の90分圏域をみると、
 地域面積で72.6%
 人口で91.3%
 をカバーしているが、アクセスに1時間以上を要するところも
 地域面積で42.3%
 人口で18.3%
 あり、地域によって時間距離に偏りがある。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。

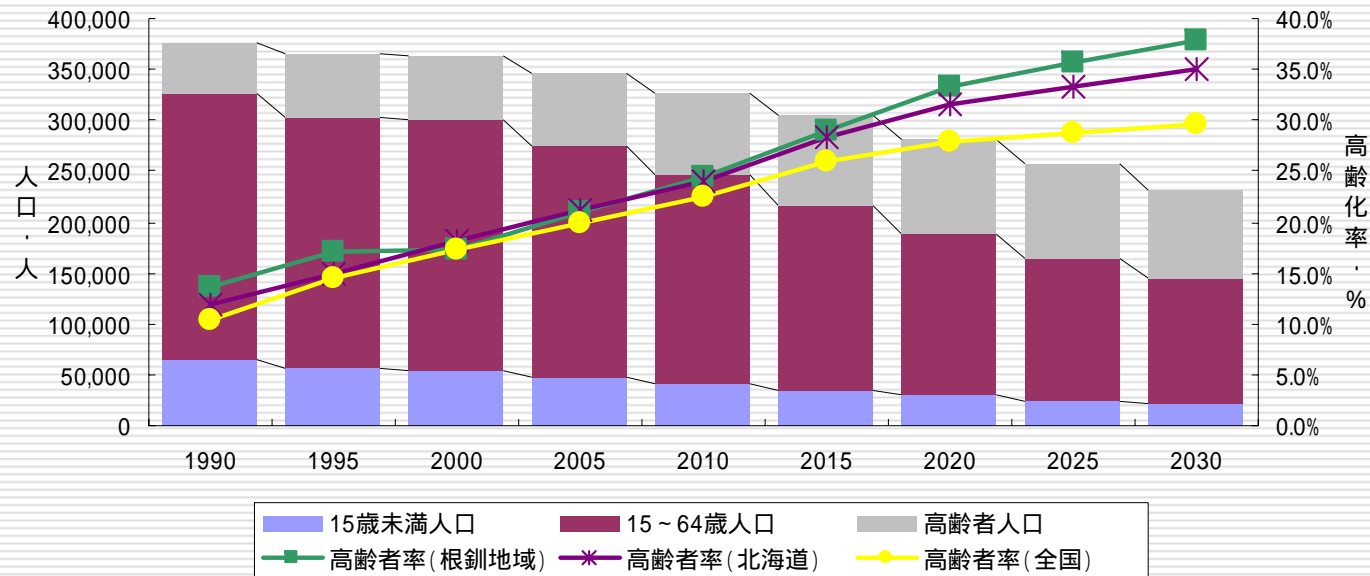
地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。

総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

年齢別人口構成と高齢化率

高齢化率を予測すると、北海道をやや上回る程度で推移し、2030年には37.9%（北海道35.0%）となる。
 ただし、全国との格差は拡大し、2030年には8.3ポイント（全国29.6%）程度上回るものと見込まれる。

【全国および北海道、釧路・根室地域の高齢化率と年齢別人口構成推移】

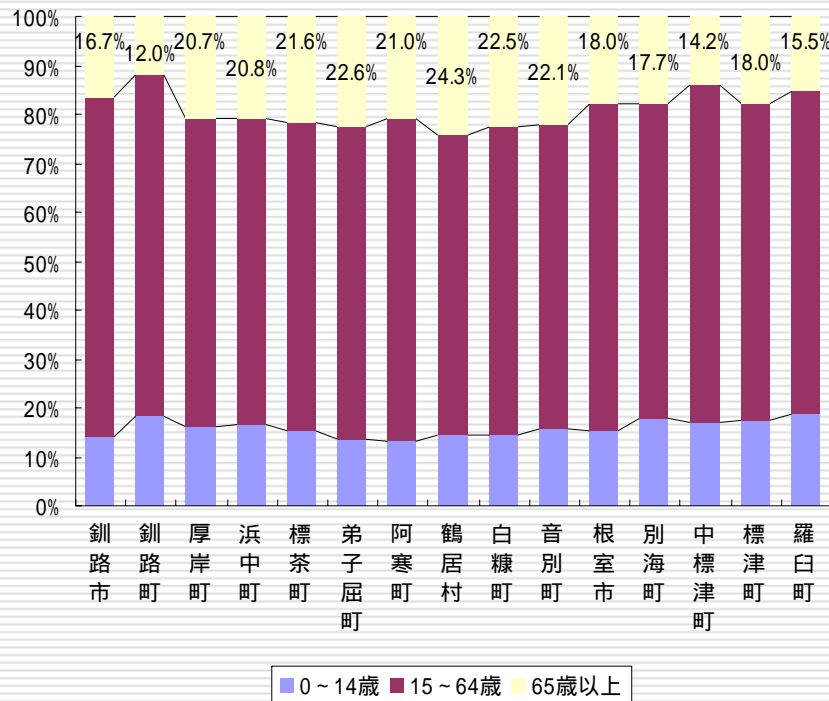


2000年は国勢調査
 2030年は未来総研による推計

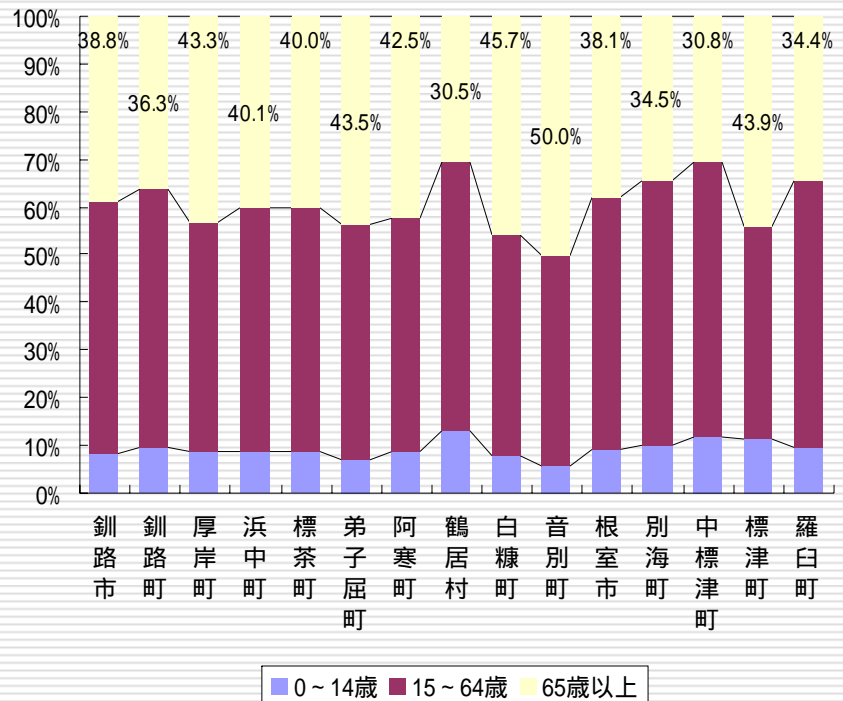
市町村別、年齢別人口構成

市町村別に高齢化率を予測すると、2000年では最大で24.3%であったものが、2030年には最大で50.0%、最小でも30.8%となる。

【市町村別、年齢別人口構成推移（2000年）】



【市町村別、年齢別人口構成推移（2030年）】



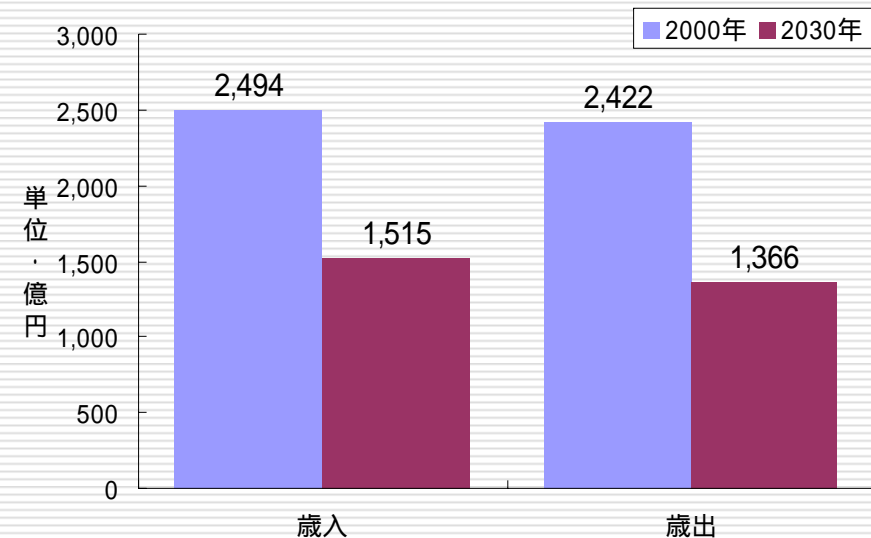
2000年は国勢調査
2030年は未来総研による推計

地方財政

地方財政

人口減少等を元にした釧根地域の市町村財政シミュレーション（歳入・歳出）を行うと、2000年の歳入額2,494億円（地域の市町村合計：以下同じ）が、2030年には1,515億円と現在の6割程度の規模になると推計される。なお、歳入と歳出の差額を市町村別にみると、9市町村でマイナスになると予測され、更に厳しい財政状況となるものと考えられる。

【市町村財政シミュレーション】



【市町村財政の推計】

北海道、北海道市長会、北海道町村会が共同作成した「市町村行財政運営シミュレーション」を使用した。このシミュレーションは、主に1998年度から2000年度の数値を使用して2002年度に作成・公表されたものであるが、2020年（平成32年）までの市町村財政の予測ができる。2030年（平成42年）までの予測については、2020年時点での住民1人あたりの歳入額、歳出額に推計人口を乗じた。なお、人口については、上述した推計結果を使用している。

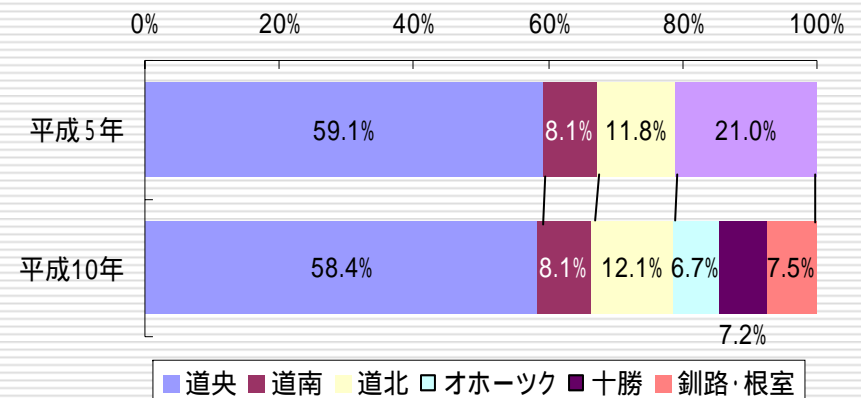
地域経済

生産額の現状

「釧路・根室」地域の生産額は2兆6,133億円（1998年）で、全道の7.5%を占めており、人口構成比の6.4%を上回っている。人口構成比を上回っているのは、「釧路・根室」地域のほか「オホーツク」、「十勝」であるが、これら地域では農業・水産業など豊かな地元資源を活かした1次産業が盛んであることがわかる。

【圏域別生産額の状況（1998年）】

	生産額(億円)		構成比(%)		生産額の伸び率(%)	
	平成5年	平成10年	平成5年	平成10年	平成5年	平成10年
道央	200,705	204,945	59.1	58.4	2.1	1.2
道南	27,617	28,482	8.1	8.1	3.1	1.3
道北	39,944	42,330	11.8	12.1	6.0	1.4
オホーツク		23,525		6.7		
十勝	(道東)71,256	25,308	(道東)21.0	7.2	(道東)5.2	(道東)1.4
釧路・根室		26,133		7.5		
北海道計	339,522	350,703	100.0	100.0	3.3	1.3



地域経済

各市町村の生産額推移

各市町村の生産額（GRP）を推計すると、就業者一人当たりでは大きな落ち込みとはならないが、地域全体では人口減により大きく低下することが予想される

市町村	2000年						2030年					
	人口	生産年齢人口	就業人口	GRP	就業者1人当たりGRP	人口1人当たりGRP	人口	生産年齢人口	就業人口	GRP	就業者1人当たりGRP	人口1人当たりGRP
釧路市	201,566	139,010	96,628	836,418	8.7	4.1	124,015	65,431	47,457	398,775	8.4	3.2
釧路町	22,478	15,638	9,030	88,410	9.8	3.9	20,793	11,335	7,453	58,953	7.9	2.8
厚岸町	12,307	7,758	6,918	50,627	7.3	4.1	6,553	3,172	3,322	24,383	7.3	3.7
浜中町	7,335	4,590	4,582	33,944	7.4	4.6	3,831	1,973	2,295	16,822	7.3	4.4
標茶町	9,388	5,910	5,076	45,988	9.1	4.9	5,059	2,600	2,463	17,217	7.0	3.4
弟子屈町	9,493	6,060	5,281	39,542	7.5	4.2	5,461	2,728	2,584	17,071	6.6	3.1
鶴居村	2,728	1,665	1,564	14,630	9.4	5.4	2,283	1,294	1,220	8,686	7.1	3.8
白糠町	11,359	7,172	5,647	51,320	9.1	4.5	5,325	2,478	2,112	16,754	7.9	3.1
根室市	33,150	22,093	18,129	135,808	7.5	4.1	18,433	9,781	8,829	68,119	7.7	3.7
別海町	16,910	10,899	9,722	94,698	9.7	5.6	11,070	6,152	6,009	45,470	7.6	4.1
中標津町	23,179	15,952	12,357	105,749	8.6	4.6	23,343	13,456	11,070	87,600	7.9	3.8
標津町	6,298	4,054	3,723	30,724	8.3	4.9	2,446	1,106	1,142	8,333	7.3	3.4
羅臼町	6,956	4,579	4,137	25,188	6.1	3.6	3,489	1,964	1,996	14,773	7.4	4.2

単位は百万円、人
未来総研による推計